飛騨地区　家庭教育学級応援通信



飛騨っ子

令和８年１１月１８日発行　　NO８
飛騨県事務所　振興防災課　振興防災係
家庭教育推進専門職　：　水　口　悟
TEL：0577－33－1111（内線 235）
E-mail：mizuguchi－satoru@pref.gifu.lg.jp

チームワークで支える



＜ 通信【飛騨っ子】 ＞

□　高山市乳幼児家庭教育事業「中学生交流」　体験活動参加型
〇期日 令和8年10月20日（火） 〇場所 高山市立久々野中学校 〇対象 乳幼児親子・中学3年生



＜ 積木コーナー ＞



＜ 魚釣りコーナー ＞



＜ おやつタイム ＞

○　実践までの経緯

令和5年度末，久々野支所の乳幼児家庭教育事業担当者が，他地域の実績を見られ，すばらしい実践を久々野地域でもぜひ実現したいという思いを持たれました。

早速，久々野中学校に相談され，令和6年度から中学校3年生の家庭科の単元「幼児のからだとこころ」に位置づけ取り組むこととなりました。今年度で，3 年目の開催となります。

まず，生徒全員によるアンパンマン体操が親子の前で披露されました。何が始まったのかと珍しそうに眺める乳幼児やお母さんと一緒に真似て身体を動かす乳幼児。

次に，生徒たちが個々のアイディアを活かして作成した輪投げ・魚釣り・風船飛ばし・積木・パッチワーク等々，様々なコーナーを設け親子を迎え入れる準備をしました。

楽しそうな様子に惹きつけられ，親子が近づいて来ると生徒たちは大喜び。乳幼児に遊び方を熱心に教えたり危なくないように見守ったり，幼く可愛らしいしぐさの１つ１つに釘付けです。

＜保護者の感想＞

・わが子が，たくさんの男子生徒とも，動じることなく遊んでいるので，とてもよい体験になったと思いました。

・１年前にこちらに越して来ました。日頃から，地域イベントの情報を得ており，特に今日は地域の中学校に初めて入ることができるということで，とても楽しみでした。

＜生徒の感想＞

・普段，乳幼児と関わることはほとんどないので，とても良い機会でした。

・すぐに泣き出してしまう乳幼児の姿を見て，お母さんの大変さがよくわかりました。



次代を担う子どもたちを育む上で，地域の自治体等が学校の先生方と協力し，よりよい教材・単元を創造する取組は楽しいです。子どもたちとって，地域の資源（人・物・事）を学校教育に取り入れることで，新しい気付きや学びが生まれます。現在，国や県の動向にある「学校運営協議会（地域とともにある学校づくり）」と「地域学校協働活動（学校を核とした地域づくり）」の視点につながる動きです。

□　石浦龍華会 宮保育園　祖父母参観　お孫さんと fufu コンサートを楽しもう　園行事参加型

〇期日 令和8年10月7日（水） 10:15～11:15　〇場所 宮保育園　〇講師 音楽グループ fufu



＜ お孫さんとリズムに合わせて，タッチ！ ＞

待合室から，園児が祖父母の皆さんと手をつないだり抱っこされたりしてホールへ入場し，それぞれに着席しました。園や学校は，地域コミュニティの核。お父さんやお母さんだけではなく，祖父母の皆さんの拠り所となっています。両親だけでなく祖父母もわが孫を育てることを楽しみ支える地域の子育て環境の存在が，あたたかくすばらしいと感じました。



＜ 指を高く上へ！ ＞

コンサートを担当するのは，地域音楽グループfufu（フフ：ふふっと笑える意）の皆さんです。祖父母の皆さんとお孫さんが一緒になって，口を動かす・顔を動かす・指を動かす・身体を動かすなどの演奏を繰り出していきます。参加者は，あっと言う間に音楽に引き込まれ，孫と祖父母との楽しいふれ合いが広がっていきました。



＜ 早口言葉に挑戦してみましょう！ ＞

参加された祖父母の皆さんは，決して一之宮地区に住んでいる方ばかりではありません。普段，お孫さんと離れて暮らしていて，保育園からの案内を受け取り，参加された方もみえます。地域のお孫さんと祖父母の方々が一堂に会し，ふれ合える機会をつくることはとても貴重です。

リズムに合わせて，早口言葉　…　言えるかな～



○「すももも　ももも　もものうち
　　ももも　すももも　もものうち」

○「かえる　ぴょこぴょこ　三ぴょこぴょこ
　　合わせて　ぴょこぴょこ　六ぴょこぴょこ」

＊４名の祖父母の方が前へ出て「早口言葉」に挑戦しました！拍手～



＜ 園児による「園のうた」の合唱披露 ＞

後半，しっとりとした曲になると祖父母の膝に抱えられうとうとし始める子も見られました。お孫さんにとって，祖父母の皆さんとの関係は，とても心地よい「安心・安全な居場所」になっていることが分かります。

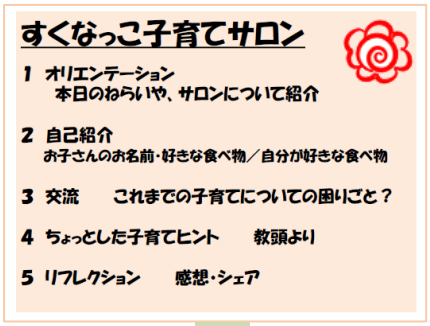
ある祖父母の方に「お孫さんの存在は，どうですか。」と尋ねると，「孫は，何をしても受け入れられる存在。無責任な可愛さが楽しいんやさ～。」と，満面の笑顔！ 自分が親だった時とは異なり，孫とは距離が遠い関係にあるだけに成長が見届けやすく可愛い！と話されました。両親も祖父母もお互いの立場を理解しつつ楽しみ，「ふふっ（fufu）」と笑える子育て・孫育てが最高です！

□　高山市立丹生川小学校　　すくなっこ 子育てサロン　　サロン型

〇開催期日（年間予定）　① ６月 10 日（実施）② ７月 10 日（未実施）③ ９月下旬（未実施）

④ 10 月 16 日（実施） ⑤ 11 月中旬（予定）⑥1 月中旬（予定）　〇場所　丹生川小学校





4 ちょっとした子育てヒント
子どもの脳は「言葉で育つ」
（プレゼン資料：教頭作）





＜ ざっくばらんに交流する保護者の皆さん ＞

〇　教頭先生の思い

子どもたちの様子を見ていて，家庭教育の重要さを改めて感じています。保護者は，日々仕事と子育ての狭間で心も身体もいっぱいいっぱいの状態だと感じられます。また，PTA 活動のスリム化などの流れもあって，親同士が子育てについての悩みや不安を気軽に交流し共感し合える場が減少しつつある現状を危惧していました。

そこで，1 年間を通し「すくなっこ 子育てサロン」の場を設けることを考えました。自身の子育てについての経験を交流することで，不安や悩みが軽くなったり解消したりするなど，顔と顔のみえるつながり（子育てネットワーク）ができることを期待しています。発案は PTA 総会を終えていた時期だったことと，PTA 役員の負担軽減を考え，まずは教頭の立場から無理なく始めることとしました。

また，この取組が，校長が話している「敷居の低い学校」づくりへつながればと考えています。



〇　すくなっこ　子育てサロン（第２回）

この日は，参加した保護者の「みなさんは，宿題をどう進めていますか」から始まりました。なかなか宿題に向かえないわが子への心配事について交流が進められました。

教頭先生が司会を務めながら，お互いの悩みを共有しベストではなくともベターなアイディアをお互いの体験をもとに引き出していかれました。教科書や正解の無い子育ての悩みや不安について，寄り添える保護者のつながりは尊いです。お互いの体験（経験）による交流は，あたたかく身近で一番良いです。

保護者同士のあたたかい関係性は子どもの関係性に映り広がります。子どもたちを豊かに育む環境は，親同士が日々いっぱいいっぱいになった心をお互いに交流し和らげるこうした場にも存在します。

校長先生も加わり，わが子の気になる姿について視点を変えてほめ，まずは親と子が「叱る−叱られる」関係から離れることの大切さを助言されました。

＜本日の交流から，大切にしたいこと＞
- 本人の気持ちに寄り添いながら，本人の「できた」を少しずつ増やしていくこと
- トライ＆エラーから，子も親も学んでいくこと

約30分の子育てサロン（交流）でしたが，話題提供された保護者の方も寄り添われた保護者の方も，自分の子育てについて少しゆとりを持って見つめ直すことで，新たな一歩を踏み出していける時間になったと実感しました。「子育てサロン」の輪が無理なく広がることを願います。

□　親子運動会　つながろう　こそだてのわ！　～ 子育ては　ひとりじゃないよ ～

〇期日 令和8年10月19日（月）午前10時～11時　〇場所 下呂交流会館　〇対象 下呂市内の乳幼児親子　〇主催 下呂市子育て支援拠点事業担当者会議　*参加者合計７６組(計171名大人84子ども87)





＜ 2① アンパンマンたまいれ ＞



＜ 2② どうぶつさいころリレー ＞



＜ 3 えほんのじかん ＞



手づくりのグッズ！
先生たち，すご～い



○ チームワークのすばらしさ

下呂市では，毎月下呂市子育て支援拠点事業担当者会議を開催しています。メンバーは，子育て支援センター・子育てステーション・児童館・こども家庭課・社会教育課の職員で構成されています。今回（4回目）の企画・運営も，この会議を通して準備を進めて来ました。やはり，顔と顔が見える関係は強い！

プログラムの内容は，動と静，全体と個人などのバランスが良く乳幼児親子の実態をよく考慮されていました。

当日は76組もの参加があり，過去最高の参加者数となりました。参加者の中には，父親の姿も見られ，思わずインタビューさせていただきました。お父さんは，子どもをあやしながらにこにことして答えてくれました。

Q　子育てに関するイベントに父親として参加することは，いかがですか？

A　私には3人の子どもがいます。この子は，現在6か月です。一番下の子を見ながらも参加することは，全然平気です。今日は，普通の休日として参加しました。

父親の働き方改革も進みつつあるようです。お父さんもお母さんも，かけがえのない子育ての時間を十分に楽しんでほしいと思いました。親子が集まる行事等に参加することは，わが子の成長や親としての役割を見つめる上で，とても良い時間となります。

はじめの100か月の育ちビジョン02（こども家庭庁）には，**「『安心と挑戦の循環』を通してこどものウェルビーイングを高める　～乳幼児の育ちには，「安心」と「挑戦」の繰り返しが大切～** という項目があります。（右下　二次元コード）

まさしく，子どもたちは親の腕の中で「安心」を確かめては離れ，「挑戦」するという行動を繰り返していました。外の世界に一歩踏み出し，成功した時も失敗した時も安心して帰って来られる居場所の存在が，子どもを育みます。



はじめの 100 か月の育ちビジョン
（ワンタップ　Link）